

のぞみ

公益社団法人
仙台青年会議所
2020年度 広報誌



- 02 | 理事長挨拶
- 08 | 委員会紹介
- 12 | 事業報告
- 15 | 新入会員募集・編集後記

03 | 理事長対談

まち
連携した未来に希望溢れる仙台づくりの実現

仙台市長

郡

公益社団法人 仙台青年会議所
第69代理事長

和子 × 木皿 讓司



<https://www.sendai-jc.or.jp>

本誌は仙台青年会議所の運動を幅広く一般の方々に発信するための広報誌です。
仙台青年会議所公式ウェブサイトでも本誌に掲載された内容をご覧いただけます。



理事長挨拶



公益社団法人仙台青年会議所 第69代理事長 木皿 謙司

平素は仙台青年会議所（以下、仙台J.C）に対し、格別のご高配を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。仙台J.Cは、1951年に全国で11番目の青年会議所として誕生し、以来69年間にわたり、市民の皆様とともに、地域に根差した事業や運動を展開してまいりました。

2020年度、仙台J.Cでは、

「Work Together to Create the Future」
「至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう」をスローガンに掲げ69年目の地域運動を展開してまいります。

近年、私たちの住み暮らす地域には、震災の復興から防災力強化に向けた課題や、生産年齢人口の減少、子どもたちを取り巻く社会環境の変化等を起因とする様々な課題が山積しております。地域を持続的発展に導く責任世代である私たちは、誰もがしあわせを共感できる仙台の実現に向けて、未来を担う子どもたちが誇りに思える仙台の未来を切り開いていかなくはなりません。

2020年度、仙台J.Cは、至誠の精神のもと市民一人ひとりの仙台に対する想いと行動を新たな時代を切り開く推進力につなげ、誰もがしあわせな未来を思い描く

ことができる仙台を実現するよう、地域や市民の皆様とともに地域運動を展開してまいります。

本年は、特に「国際」に力を入れて取り組む事業計画を立てております。私たち仙台J.Cは、世界125カ国からなる国際組織（JCI）の特色やネットワークを活かし、グローバルな視点のもと地域を牽引する人材を育むとともに、国内外の多様な価値観に触れる中で得た経験や知見を仙台の発展に結び付けるべく、まちづくり・ひとづくり事業、青少年育成事業、防災・減災事業等、様々な事業軸において「国際」をテーマに据え、仙台の国際化推進に寄与する運動を創出してまいります。

本年度のスローガンに掲げる基本理念は、「至誠の精神」であり、私たちが理想とする仙台の実現には、誠の心をもって能動的に行動する「至誠」が必要であり、私は、

市民一人ひとりが至誠を尽くし、未来を見据えて行動していくことで、誰もがしあわせを共感できる仙台が創造されると確信します。そしてまた、未来に向けた市民運動に対する原動力や能動性は、Work Together（協働）により創出され、加速・拡大していくものだと考えております。新たな時代を切り開く責任世代として、何事にも先駆して取り組むとともに、想いと行動を共にする市民運動の輪を拡げてまいりましょう。

結びに、仙台J.Cでは、市民が起点となり推進する仙台の国際化を実現し、様々な事業に邁進してまいります。本年も当会議所が開く事業にご支援いただいている市民の皆様や、行政・企業・関係各所の皆様からの一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

理 事 長 対 談

仙台市長

郡

和子

×

公益社団法人 仙台青年会議所
第69代理事長

木皿 讓司

連携した未来に希望溢れる^{まち}仙台づくりの実現

未来を見据えた仙台の国際化を事業軸とし、
まちづくり・ひとづくり・青少年育成、仙台七夕花火祭、そして防災を含めた
3つの事業展開のもと今年度の仙台青年会議所は推進していきます。



木皿理事長（以下、木皿） 平素は仙台J.C.の様々な事業におきまして、仙台市様の多大なるご理解とご協力・ご支援をいただいていることに、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

郡市長（以下、郡） 仙台J.C.の皆様が行っている多くの活動は、仙台市の元気の源になっていただいていると思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

仙台七夕花火祭開催において

木皿 昨年は、仙台J.C.が半世紀にわたり開催を続けてきた仙台七夕花火祭において、節目となる第50回の花火を打ち上げました。本事業へのご支援、ご協力誠にありがとうございました。本年も第51回の仙台七夕花火祭を開催させていただきます。引き続きご支援をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

郡 仙台J.C.の皆様が半世紀にわたり開催されている仙台七夕花火祭、これは市民にとっても夏の風物詩として定着していて、近年では約50万人の方々が花火を楽しみに仙台の中心部に集まります。打ち上げに向けて様々な面でご苦労が多い中、続けていただいていることに改めて感謝を申し上げます。また、仙台市も連携・協働させていただいておりますが、他にも関係各所の皆様とのパートナーシップを結ばれるお話も伺いました。本市と

しても、しっかりとお話を伺った上で検討して、どのような協力ができるのか考えてまいりたいと思います。

木皿 ありがとうございます。まさに、郡市長がお話しされた様に、パートナーシップがキーワードとなってくると考えております。本年度2020年度の仙台J.C.は、「Work Together to Create the Future」～至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう～というスローガンを掲げさせていただきました。これは、ともに未来を創っていきましょうという、協働性・パートナーシップを英語で表記することによって国際というテーマ性を様々な事業に織り込んでいきたいという想いがあります。この「Work Together」に秘められた想いというのが、まさに郡市長のお話しされているパートナーシップの構築というところだと思っております。仙台七夕花火祭のように地域や市民に愛される地域の伝統文化もそうですし、近年継続して取り組みを行っている防災事業や、まちづくり・ひとづくり事業、青少年育成事業等、全ての事業軸に関連して明確に必要となるものがパートナーシップだと思っております。本年は、パートナーシップの在り方というものを明確にし、先々まで波及効果を齎し得るインパクトのある内容で形にしていきたいと考えております。

郡 仙台市も、かねてから市民協働という形で、市民の皆様や、様々な団体



と協働し、仙台のまちをより希望のあふれるまちにしていきたいと考えておりました。まさに、木皿理事長がお話しされたことと同じ想いだと考えてます。

木皿 本年度の仙台J.C.には事業軸が大きく分けて3つあります。1つ目は花火、2つ目は防災、3つ目は、国際を基軸としたまちづくり・ひとづくり・青少年育成という軸になっております。仙台七夕花火祭に関しましては、昨年第50回目の花火を打ち上げ、半世紀の節目を越えて本年度第51回目を新たな一歩として開催する事となりますが、先程、市長がお話しされたように、行政・企業・学校法人・社会団体、様々な主体とのパートナーシップを築く中で、協定締結など、後世の基盤となる一つの軸を立てる必要があると考えておりました。市民の意識の変革もJ.C.

の運動の側面でありますので、パートナーシップや協定締結の先にある事業基盤に市民の皆様がどのように関わりを持つことができるのかにも注視し、仙台J.C.は未来を見据え、本年度の仙台七夕花火祭を計画していきたいと思っております。

郡 仙台七夕花火祭においては、仙台市としても例年、協力をさせていただいておりますが、これだけ長い間、多くの市民の方々の期待に応え、スケールの大きな花火を打ち上げるとともに、様々な市民パートナーや、協賛・出店の協力獲得に仙台J.C.の皆様がご尽力されている一方で、警備や予算等、様々な課題があるかと思えます。花火を成功させる上で、関係する皆様とどのような協働ができるのか、今、木皿理事長がお話しされたことが重要な観

点であると考えています。また、仙台市も連携・協働させていただいておりますが、他にも関係各所の皆様とのパートナーシップを結ばれるお話も伺いました。本市と

点だと感じております。そういう意味では仙台市としても、どのようなパートナーシップを築いていけるのか、これも色々ご意見を伺いながら、一緒にやっていきたいと思えます。よろしく願っています。

木皿 本年度の仙台七夕花火祭は「紡ぐ想いを一つに愛する仙台へ」というテーマがつい先月、当会議所の理事会において採択されました。これも先程お伝えさせていただいた、本年度の仙台JC全体の運動指針である「Work Together to Create the Future」至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう」に紐付いておりまして、市民の皆様様の想いを紡いで、1つの糸に、1つの想いに、そして1つの伝統文化として形作ってという想いを込めた第51回

目の仙台七夕花火祭となります。より強固な「絆」を紡ぐというような想いもございましたので、是非、本年度の仙台七夕花火祭に向けての引き続きのご協力をよろしくお願い申し上げます。

郡 仙台市民のみならず、遠くからおいでになれる方々も多くいらつやいますので、是非力を合わせてこの仙台七夕花火祭を成功に導けるように、私も対応してまいりたいと考えております。こちらこそよろしく願っています。

防災事業について

木皿 続いて、防災事業についてお話をさせていただきます。東日本大震災発災から3月11日で9年の経過となります。今、何が求められているのか、

震災の風化防止であるのか、市民の方々の防災意識の高揚であるのか、全国・世界への防災・減災意識の啓発という形なのか、我々の復興知見・経験を共有することで、今後に起こりうる震災の犠牲者等の抑止につなげていくような、防災文化として発信していくべきなのか、当会議所では、今お話ししたすべてが必要な事であると認識している中で、仙台の未来を切り開く運動を展開してまいりたいと考えております。仙台市としてこの9年目、そして、今後10年目の節目を迎えるにあたり、どのようにお考えかお聞かせいただければと思います。

郡 木皿理事長がおっしゃるとおり、震災から9年、そして10年目に入ります。仙台JCの皆様には、3・11キャンドルナイトを含めて、様々なお取り組みをしていただきました。防災についても様々な取り組みをいただいでいて、防災環境都市を標榜している本市にとっても、本当にありがたいと思っており、深く感謝を申し上げます。仙台市の復興の状況は、津波に対する多重防御の要であった、かさ上げ道路、東部復興道路が昨年の11月末に開通いたしました。また、災害跡地の利活用についても多くの方々のご協力のもと、これも形が見え始めています。そういう意味では着実な歩みを進めてきていると思っております。また、震災より、年月が経過していることに対して、風化防止という観点から仙台市では中心部震災メモリアル拠点の基本構想を検討しているところでございます。

そしてまた、仙台防災枠組の採択都市として、この教訓を残していく取り組みというのでも重要なことだと認識しております。仙台防災未来フォーラムの拡充をしていこうと考えております。そのみならず、復興のハード事業が終わったとしても、被災された方々の心の復興、人の復興というのでしょうか、それには長い年月が必要だと考えており、ここに対する取り組みは非常に重要なことだと思っております。また、仙台JC様のお力もお借りしながら、防災の面でも取り組み、教訓も伝えていきたいと考えています。そして、昨年は台風19号の被害がありました。近年、想像を越える集中豪雨などで各地に被害がでております。仙台市でも都市型水害として、市民の方々に大変なご迷惑をおかけしたと考えています。それにもない、仙台市では仙台駅前西口の排水機能を強化していく取り組みを進め、国土強靱化地域計画というのを策定することになっています。



木皿 そういった様々な政策がある中で、地域・市民の意識変革による仙台の発展を牽引する社会人団体である仙台JCは、私達が担うべき内容について議論を重ねているのですが、昨年から仙台市危機管理室減災推進課と協働しております。仙台地域防災リーダー、通称SBLですが、今ある課題や、今後の計画を何か仙台JCでも後押しやご協力させていただける内容はないか、仙台JCだからこそできることは



規範として防災の取り組みをお示しすることが我々の責任なのではないかと思っております。こうした視点に立ち、今後も地域運動に一層、邁進してまいりたいと思っております。

郡 これまでも仙台JICの皆様には復興から、防災減災の取り組みまでの大きな一翼を担っていただいていると思っておりますが、さらにSBLの取り組みを若い皆様に広げていきたいという強い思いをしっかりと受け止めさせていただいで、大変心強く思います。是非よろしく願います。

仙台の国際化を目指すために

木皿 続いて、3つ目の軸は、多少幅の広い枠になりますが、仙台の国際化を3つ目の軸としております。仙台JICでは、都市の国際化を基点とする仙台の未来を創造するために、2021年にJCI国際アカデミーを仙台の地に誘致することを目指し、働きかけを行っております。

ないかと考えておりました。昨年からの取り組みが今年も継承されており、青年経済人層、もしくは学生層といった若い層に対して、今のSBLとなるとハードルは高いかも知れませんが、それに準ずるような称号を付与できるような防災カリキュラムなどを、年間を通して実施させていただければと考えております。青年経済人層、学生層の防災リーダーを自発的に創り上げ、拡大していくような組織・仕組みがあれば、さらに、その組織・仕組みによる知見・経験が各地域にさらに拡散されていければ、地域全体の防災の底上げになると思っております。何よりもこの防災先進都市として全国、世界に、

JCI国際アカデミーは、世界80ヶ国あまりの国際青年会議所の代表者が集い、国際交流と自己研鑽を重ねる中で、世界との友情を深めるとともに、自身の国や地域に留まらない社会発展や世界平和の確立を目的とした事業です。これほど多くの海外の方を受け入れるにあたって、やはり本年度の誘致活動はもちろん重要であります。受け入れたその先に、2021年度の仙台の国際意識や都市インフラを整えた状態で受け入れることができるかによつ

て、事業の効果が良くも悪くもなってしまうと考えておりました。本年は、未来を見据えた仙台の国際化を事業軸として、青少年育成、まちづくり・ひとづくり、そして防災を含めた、3つの事業展開のもと、仙台の国際化を推進してまいりたいと考えておりました。

郡 今年は、東京オリンピック・パラリンピックの開催年であり、その次にJCI国際アカデミーが開催されるということは、市民の皆様が国際意識を高めていく上でも、そしてまた国際交流を進めていく上でも、非常に意義のあることであり、私としても大変期待をさせていただいております。仙台市では交流人口の拡大という点で、様々な取り組みを行っているところであります。そういう意味でも外国の方々、しかも経済界のリーダーとなっていく若い方々が仙台に来てくださるとなると、仙台の魅力を発信する、またとない機会となると思っております。今、仙台市では「体験都市」というのを目指しています。観光やビジネスなどで仙台にお越しになる旅行者の方々楽しんでいただける体験プログラムを、1000本、揃えようという取り組みがあり、その中で、既にできているものをWEB上で発信もさせていただいております。「仙台旅先体験コレクション」と題して紹介しているのですが、これも是非ご覧いただき、海外からおいでになる将来経済界の指導者になる皆様に体験していただきたいと思っております。是非、JCI国際アカデミーの誘致が成功す

るように本市としても、できる限り誘致の成功、そして開催成功となるような協力をさせていただきたいと思っております。

木皿 国際アカデミーを誘致するプロセスにもやはり重要な意味があると考えております。国際事業を誘致・開催する上で、市民の皆様が国際意識の醸成や、海外の方々がある多様性の受け入れなどを学ぶプロセスは、青少年育成事業において求められているものではないかと考えております。青少年育成における自己肯定感・自己有用感の確立という点では、国際というフィールドにおいて視野を広げられる中で、海外の方に対し、自分を表現することができた、民間外交を推進することができたという成功体験を共有することによって、皆様から肯定してもらい自己肯定感を高めることは、仙台の次代を担う子ども達にとつてかけがえのない財産になるのではないかと考えております。

郡 多様性とよく言いますが、国籍の違いや肌の色の違いなどを乗り越えて様々な人達がいる、いろいろな考え方があって、それらをかけあわせて更に良いものができていくような社会が望ましいと思っております。来年度から小学校での外国語教育が教科として始まります。また、仙台JICさんが仙台の子ども達と、留学して来られた方々との交流の場を作ってくださいたりして、すべての事業軸において大きな



意義があると思っています。身近に体験できる国際交流の機会は、私の時代では考えられなかったことでした。とても可能性が感じられ、仙台の未来の発展に対しても還元されるであろうことを想像すると、とてもワクワクドキドキしてきますね。

木皿 私はJCに入会して、国際事業に携わった経験から、海外の方々には私達が住み暮らす仙台の魅力と責任を持ってお伝えする責務があると自覚したといっても過言ではありません。そのような経験を仙台に住まわれる皆様と共有していただきたいと思います。

郡 そうですね、最近海外からのお客様が増えてきましたので、是非、ウェルカムという雰囲気、海外からのお客様に対して市民の皆様お一人一人が仙台のまちをPRしていただけるような仙台になることを期待しております。

木皿 やはり国際化の本質はそこにあると思っております。国際化に成功する、成功しないというよりは、海外の方を受け入れるための土壌を築くことができるかが、仙台JCが行う国際化の推進だと考えております。今後様々な事業を展開してまいりますので、国際の事業軸においてもパートナーシップの構築にご協力をいただければと思います。

郡 是非よろしくお願いいたします。

仙台JCへの想い

木皿 最後になりますが、2020年度で仙台市の政策重点化方針も一区切りされ、また新たな政策方針が策定されておるところだと思います。それも含めて、この仙台JCにご期待いただけるような、考えや想いがあれば是非お聞かせ願いたいと思います。

郡 冒頭のお話で69代の理事長でいらつしやるとお話されておりましたが、それは、仙台JCが69年という長い年月、仙台市において活動されていらつしや、一つひとつの活動が素晴らしいものだと思っています。木皿理事長が国際の話、あるいは防災の話、あるいはこれからのまちづくりの話、あるいは、良きパートナーとして木皿理事長の示す方向性と、私どもが考えている市政の見つめる先というものは共通しているものが多いと認識しております。現在も仙台市の市政方針について議会を進めておりますが、私の



今期のテーマが、「多様な力で未来をつくる、新たな杜の都への挑戦」なんです。これは木皿理事長の所信と随分似ていると思いませんか。

木皿 驚きました、本当に同じ想いですね。

郡 そうですよ。互いに色々なコミュニケーションを深めながらより良い仙台のまち、元気なまち、そして未来の希望溢れるまちづくりのために、お互いに協力をし、様々な事業におきましても、連携、協働して、お互い高め合えるような関係性を構築できればと考えております。

木皿 今後とも仙台の未来を切り開くJC運動を積極的に進めてまいりますので、お互いが高め合える関係性を築いてまいります。本日はご対談いただきまして誠にありがとうございました。

郡 こちらこそ、ありがとうございました。

仙台青年会議所と国際との関わり

当会議所では1951年（昭和26年）の発足から様々な国際化推進事業を行ってきました。

海外の姉妹JCであるパラニャーケ・パンパドJC（フィリピン）やアイランドJC（香港）とは、毎年積極的な交流を行い親睦を深めております。近年では、まち事業を通じて台南市の新榮JCとの交流も行われています。

2021年度の国際アカデミー仙台開催に向けて、仙台市

との協力のもと、本年度は、より国際を意識した事業を展開し、意義のある誘致活動を行ってまいります。

2020年度の国際行事

- 6月11日（木）～14日（日）
JC | ASPAC アジア・太平洋地域会議
（カンボジアアンコール）
- 7月7日（火）～11日（土）
JC | 国際アカデミー（福岡）
- 11月3日（火）～7日（土）
JC | 世界会議（横浜）

2020

委員会紹介

仙台国際化推進会議

議長 千葉 智久

仙台国際化推進会議は、国際交流事業の推進を基調とする地域活性化に向け、仙台JC全体を巻き込んだ組織連携の向上を図ります。まずは、JCI日本主催による2021年度の国際アカデミー仙台開催の誘致に向けて、メンバーの皆様と共に国際交流事業が齎す運動の効果を最大限に引き出すために、行政や企業、関係各所との協力体制を築きながら、国際アカデミー検討委員会を実施させていただきます。そして、検討委員会において具体的な方向性や計画、検討事項を皆様と共に共有することで、仙台の未来を見据えた国際交流事業に関わる主体としての認識を高めていただきます。さらに、2021年に

仙台JCは創立70周年を迎える節目の年を迎えます。今後も継続して仙台から必要とされる組織となるために、これまでいただいた関係団体からの支援や、先輩諸兄が連綿と受け継いできた歴史に対して感謝の意を表すとともに、今後更なるJC運動の推進力を高め、創立70周年記念事業へ向けて円滑な実施計画の策定のもと、実施前年度となる本年において綿密な計画と立案を行ってまいります。



当会議体は、組織内の連携と行政や関係各所との協働のもと、誰もがしがあわせな未来を思い描くことができる仙台の実現を目指し、1年間邁進してまいりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

法令会計審査会議

議長 佐々木 正寿

法令会計審査会議では公益性の高い効果的な事業構築と健全な財務管理をするために、組織の明瞭な情報開示を行い健全な財務基盤の構築につなげます。また、各組織体が円滑な運動を行えるように例会や事業の計画に対する予算組や決算の適性を推進し、コンプライアンスが徹底されていることの確認を行うことで、メンバーの法令順守の意識を高めてまいります。そして、時代に即した組織運営を支えるため、定款

及び諸規定を検証し、次代につながる組織基盤の形成につなげます。さらに、仙台JCが取組んだ事業をアワードに申請することで事業の成果の発信と検証や地域の有益情報の発信をすると共に、仙台の発展に貢献する様々な分野において持続的なインパクトを与えることのできる可能性を秘めた傑出した若者の人財を発掘し、TOYP(人間力大賞)へのエントリーを行い、今後実施する事業の質の向上とメンバーの活動意欲の向上を図ってまいります。



七夕花火祭特別委員会

特別委員長 石垣 光一朗

七夕花火祭特別委員会は、毎年8月5日に行われる仙台七夕花火祭の企画運営を中心に行う委員会です。仙台市民の皆様より親しまれ続け、今まで連綿と受け継いできた歴史ある仙台七夕花火祭を本年も安全を最優先に地域愛を育む事業として開催を目指します。

七夕花火祭は多くの市民の皆様のご理解と協力で、現在では仙台の夏のシンボルとなっています。初回の開催以降も時代の変化に対応し、その時代に合わせて仙台七夕花火祭も変化を続けてきました。しかし、打ち上げ場所の変更や、それに伴う安全確保と事業費の増加など、仙台七夕花火祭は転換期を迎えています。さらに、本年度は警備等の人員不足による打ち上げ資金の高騰が予想されます。このような時だからこそ、51回目を迎える2020年度は、これまで50回継続されて

きた仙台七夕花火祭の歴史を紡いで未来へつなぎ、時代の変化に対応することができる仙台七夕花火祭の開催を目指して計画と準備を進めてまいります。

仙台七夕花火祭を実施する中で、本年度テーマの「紡ぐ〜想いを一つに愛する仙台へ〜」には市民、行政、企業などの様々なパートナーから、それぞれの想いを引き出し、その想いを一つに紡いでいくことで、仙台七夕花火祭の新たな基盤を構築していきたいという想いを込めて掲げさせていただきました。そして、市民の皆様一人ひとりが、もっと仙台を良くしていきたい、仙台の未来のために何か自分ができることをしていきたい、様々な想いを一つに紡ぐことで、市民の方々がさらに住み暮らす街、仙台に愛着を持つことができる機会の創出につなげてきます。皆様からの変わらぬご支援とご協力、何卒よろしくお願い申し上げます。





グローバルパートナーシップ構築委員会

委員長 須知 亨



グローバルパートナーシップ構築委員会では、地域市民が主体となり推進される都市の国際化に繋がる運動を展開してまいります。

まずは、市民主体の民間外交を実現するために、海外の方や仙台に住み暮らす人達の価値観や感受性の違いを認識する機会を創出する中で、国際社会に求められる知識や見識を拡げ、多様な価値観の違いを受け入れる必要性を学ぶとともに、様々な感受性を持つ海外の人々との相互理解を図ることで、仙台の優れた地域資源と多

様な価値観との調和により生まれる新たな仙台の魅力に対する理解を深め、都市の国際化に対して主体的に関わる当事者意識を高めます。そして、仙台の持続的発展に向けた市民協働による都市の国際化を実現するために、価値観や感受性の違いに触れる国際交流を推進する中で、仙台の歴史文化や精神性への理解のもと、世界に対し仙台の魅力を共有し、仙台の国際化によって齎される地域活性化と関係各所との連携の必要性を理解する機会を創出するとともに、仙台の魅力の世界に伝える市民意識と相互理解を深めることで、世界と仙台をつなぐ市民主体のグローバルネットワークを構築します。

しあわせな未来を想い描く仙台創造委員会

委員長 三浦 雄一



東日本大震災の発災から9年が経過し、当時の記憶が年々風化しつつある中で経験を未来につなげる新しいまちづくりの推進と世界各国からいただいた支援に感謝の想いを示すため世界の防災文化発展に寄与する防災環境都市の実現をする必要があります。

本年度、しあわせな未来を想い描く仙台創造委員会では、復興知見のもと築き上げてきた各地域

防災モデルを仙台の誇るべき防災文化として発展させるために、行政や各地域と連携し学生が主体となった自主防災組織を形成し、地域防災活動を広く世界に発信し続け、市民一人ひとりの自覚と防災意識を向上します。そして、本年度仙台の地で開催される宮城ブロック大会の主管青年会議所として復興に向けて前進する仙台の姿を世界への感謝の想いとともに関心し、世界からいただいた支援に対する感謝の想いを風化することなく市民の防災への当事者意識を県内全域へ波及します。

国際社会をたくましく生きる子ども育成委員会

委員長 大高 成美



「次代を担う子どもたちに、たくましく生きる力を備える」それが私たち国際社会をたくましく生きる子ども育成委員会の責務であります。グローバル化が進み、我々を取り巻く環境が刻々と変化する社会を牽引していく子どもたちを育成するため、積極的な国際交流から子どもたちの自己肯定感を高める運動を展開し、市民の国際に対する意識の高揚と多文

化共生社会に対する理解と共感を拡げてまいります。

当委員会では、事業と公開例会を通じ、外国人との交流から子どもたちに自己肯定感を高めていただくとともに、親や地域の人々に、子どもたちの成長には国際交流が必要であるということを理解していただきます。

国際を通じて成長した子どもたちの姿から、仙台の多文化共生社会に対する意識をさらに向上していけるよう、委員会一丸となって仙台の子どもたちの未来のために運動を展開してまいります。

2020

委員会紹介

会員開発委員会

委員長 中村 望成

会員開発委員会では、新入会員の開発と研修を行います。本年度は2月に新入会員の獲得につなげるべく公開例会を担当いたしました。また、事業報告会を担当いたします。

会員拡大は仙台JCの発足当初から唯一途絶えることなく行われている継続事業です。この会員拡大が行われないと会員数が5年間で半分以下になります。本年度は50名必達を掲げ会員拡大に取り組んでまいります。また、本年度は女性メ

ンバーの拡大に積極的に取り組んでまいります。女性が入りやすい環境を整えるために、女性メンバーを対象とした「仙台JCなでしこ会」を発足・開催することで女性拡大基盤を構築いたします。

新入会員の拡大はLOMメンバー全員が一丸となって取り組む事業です。メンバーの皆様当事者意識を持っていただくとともに、メンバー同士の有機的な連携体制と組織的な拡大基盤を構築するべく会員拡大を推進してまいります。ご協力の程よろしくお願いたします。



資質向上委員会

委員長 佐々木 雅文

私たち資質向上委員会13名のメンバーは、主に年4回の例会を担当いたします。少子高齢化が進む社会において多面的な市民力の向上が必要とされているとの問題意識から、各例会を通して、地域の活力として新たな価値を生み、地域社会に貢献する人財を育成してまいります。

そのために、JCの組織理念の体得、メンバー同士の関係の

深化、責任の自覚、地域社会との協働など、地域の持続的発展を牽引していくために不可欠な要素を学んでまいります。至誠の精神を胸に新たな時代を切り開く勇気と情熱に漲る組織の一員として、メンバーの様々な個性と能力の相乗効果と豊かな創造性のもと、地域に持続的発展を齎す運動を牽引するリーダーとなるべく、メンバー一人ひとりの資質がより向上するよう尽力してまいります。



広報委員会

委員長 佐々木 拓也

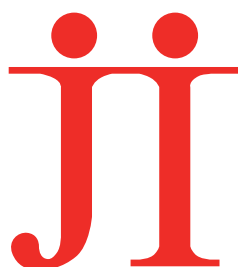
広報委員会では、地域や市民の皆様に対して仙台青年会議所の様々な運動へのご理解や共感を広めるべく、組織力を活かした円滑な広報活動のもと仙台青年会議所の運動を皆様に発信してまいります。広報誌「のぞみ」を年3回発行し、公式WEBサイトや各種SNSを用いて継続的に運動を発信いたします。また、円滑な広報を実践するための対外発信ガイ

ドラインを策定させていただき、仙台JCの広報を、より効果的なものにしてまいります。4月には会員向けの例会を開催いたします。

本年度は、会員が同じ方向を見据えて組織的な広報を展開する中で、地域や市民の皆様に向けて広く運動を伝播する組織へ進化し、至誠の精神を胸に、誰もがしあわせな未来を想い描ける仙台の実現のために運動を展開してまいります。



一人ひとりのこれからを大切にします



ジャパンインシュアランス株式会社
〒981-0921 仙台市青葉区藤松3-5 アトラスヒルズ1F
TEL.022-727-8431

渉外委員会

委員長 齋藤 恵太



渉外委員会では、仙台JCメンバーへ向けてJCIや日本JCが開催する各種大会及び事業への参加を促進し、メンバー各自の事業構築に向けての学びや見識を高めるとともに、各種大会において仙台の魅力国内外に発信するブース設営の企画・運営を行います。ブース設営においては国内外の地域の

メンバーとの交流を通じ、地域の文化や伝統に触れながらメンバーが一つとなり仙台の魅力を発信することで結束力の向上につなげます。また、姉妹JCであるパラニャケ・バンバドJC(フィリピン)やアイランドJC(香港)など海外からの来訪メンバーが安心して滞在できるように各種手配やアテンドの渉外業務を行い組織間の結束にもつなげます。11月には例会を担当し、渉外委員会が開催する例会として、メンバー一人ひとりが国際組織のリーダーとして成長できる機会を提供いたします。

1年を通じて民間外交を牽引するリーダーとして、^{まち}仙台の未来を見出すメンバーと共に、誰もがしがあわせな未来を想い描ける仙台を実現します。

総務委員会

委員長 柿沼 岳範



総務委員会では、仙台JCが能動的市民と共に地域を持続的発展に導く組織体制の確立ができるよう、厳正な会務運営と正確な議事録の作成や管理を徹底することで、メンバーの組織運営に対する当事者意識を向上させます。また、会員名簿、基本資料、アニュアルレポートを作成し、可視化と次世代

に対し引き継いでいくことで、組織内における情報共有基盤の強化と効率を高めます。そして、本年度最後の例会となる第13回例会の担当をいたします。例会では、創始の想いや先輩諸兄から連綿と受け継がれた伝統や誇りを継承し、卒業生がJC運動に邁進してきた軌跡や想いを共有するとともに、適正な基準による褒賞を授与し、模範となる活動をした個人、組織体を称えます。

同じ理想と至誠の精神のもとで統制された厳格な会務運営の中、^{まち}仙台の持続的発展に導く強固な組織力で構築された運動体として、課題に取り組む多様な価値観と牽引力を兼ね備えたメンバーと共に、仙台JCの運動を支えてまいります。

事務局

局長 寺崎 修平



事務局は少数精鋭の5人構成です。主な業務は仙台青年会議所の事務運営機能・JCルームの管理と運営・LOM備品の管理です。その他にも、アテンド業務や会員への資料の発送業務も行います。

『Work Together to Create the Future~

至誠の精神のもと^{まち}仙台の未来を切り開こう~』のスローガンのもと運動する仙台JCの「縁の下の力持ち」であり、円滑な組織運営には欠かせない大切な組織だと私は考えております。また、事務局は多くのJCメンバーと関わる機会があり、各組織体やメンバーからの依頼や要望を直接受けることができますので、できる限り応えられるように個々のコミュニケーションも大切にしていきます。

仙台JCメンバーを支え、誰もがしがあわせな未来を想い描くことができる仙台を実現してまいります。ご支援とご協力どうぞよろしく願いいたします。

ナイスクリーン株式会社



自然環境を再生し、豊かな地球を創造する

伐採・木材リサイクル・森林管理・中間処理業

ナイスクリーン株式会社

TEL:022-393-2205 FAX:022-393-2207

Mail:info@nice-clean.co.jp

新年式典・新春名刺交換会

1月22日（水）に江陽グランドホテルにて2020年度新年式典・新春名刺交換会を開催しました。

新年式典においては、木皿理事長の所信表明を行い「Work Together to Create the Future～至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう～」をスローガンに本年度の仙台JCIの方向性を力強く発信しました。

新春名刺交換会においては、仙台JCIメンバーが来場された皆様と積極的なコミュニケーションを図ることができました。



裸参り

小正月の1月14日（火）に、伝統行事「どんと祭」が宮城県内各地で開催されました。仙台青年会議所の裸参りへの参加も今年で36年目になります。身も引き締まる寒さの中、「至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう」の実現を願い多くのメンバーが心一つにして八幡神社の御神火を目指しました。神社では御祈禱を執り行い、本年度の活動とこれからの仙台の発展を祈願し、事故も無く無事盛大に終えることができました。



エレクトロニクス技術のあくなき追求

◆自動制御盤 ◆省力化機器 ◆電子装置 ◆計測機器 ◆光学装置 ◆電子パーツ等

開発・設計・製作及び工事

東日本産業株式会社

代表取締役 石黒 雅之

〒981-0134 宮城郡利府町しらかし台6丁目2-11 TEL022-356-5253



TOUKEN GROUP

株式会社トウケングループ

〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町34-22
TEL/022(781)5031 ・ FAX/022(781)5032
E-mail/info@toukengroup.com

業務概要

● 解体事業部

家屋解体工事
各種解体工事

● 土木事業部

基礎工事
外構工事

● 建築事業部

住宅リフォーム工事
テナント改修工事

<https://toukengroup.co.jp>



内ヶ崎法律事務所

〒980-0811 仙台市青葉区一番町1丁目17番20号 グランドメゾン片平503
TEL:022-397-7307 FAX:022-397-7308
弁護士 内ヶ崎 裕之

京都会議報告

1月16日(木)から1月19日(日)までの4日間にわたり京都の地で開催されました。京都会議では、公益社団法人 日本青年会議所 第69代会頭 石田全史君が所信表明を行い、「全ての人びとが 笑顔で生きがいを持てる国 日本の創造」を基本理念に掲げ、本年度の日本青年会議所の方向性が発信されました。また、東北地区ナイトにおいては、仙台JCから公益社団法人 日本青年会議所東北地区協議会の会長として出向する武山祐樹君より今年度の東北地区協議会の方向性を青年会議所メンバーに力強く発信しました。



第1回通常総会

2月12日(水)公益社団法人 仙台青年会議所 2020年度第1回通常総会が、仙台国際センターで開催されました。通常総会は、当青年会議所の最高意思決定機関であります。本総会では、2019年度の事業報告並びに会計報告・会計監査報告(案)承認の件、2020年度出向者(案)承認の件が審議され、満場一致をもって可決しました。また、2020年度の事業計画並びに予算報告についての報告がされました。



第2回例会

本公開例会では、「Work together～まちのトップリーダーに聞く!～」と題しまして、株式会社清月記 代表取締役 菅原裕典先輩、株式会社サイコー 代表取締役 齋藤孝志先輩をパネリストにお招きし、木皿理事長とのトークセッションを行いました。それぞれのJC活動がどのように自身の成長につながり、地域発展に寄与し、社業に活かされたのかご自身の経験を交えながらご説明していただきました。

200名を超える参加者の方々、地域のために率先して行動を起こすことや、情報発信がもたらす効果について学んでいた貴重な機会となりました。



学生向け貸貸多数



宮城県仙台市の貸貸なら 清光商事株式会社

〒980-0801
宮城県仙台市青葉区木町通 1 丁目 4-23
TEL : 022-395-6091
WEB サイト : <https://www.seikoshoji.net/>

2020年度も仙台青年会議所 新入会員を募集しております。 我がまち仙台のための、まちづくりに参加しませんか。

会員開発委員会では1月より新入会員の募集を行ってまいりました。新入会員の募集は4月中旬までと限られた期間内で行われます。2月6日(木)には会員拡大推進事業の第1弾として、「会員拡大推進セミナー」を開催いたしました。このセミナーは、JCIの基本運動である会員拡大を一人ひとりが主体的に行動するために、組織的に会員拡大を行う重要性、また効果的なアプローチの方法を確立するために行いました。セミナーでは、第1部でJCIが設立されて以来唯一途絶えることなく継続している会員拡大事業について、なぜ継続しているのか、なぜ続けなければならないのかを知っていただくとともに、会員拡大の重要性を理解していただきました。第2部では「女性会員の拡大」と題して、女性会員拡大に意識的に取り組むために、女性会員拡大の重要性について理解していただき、具体的なアプローチとなるターゲット層を理解していただきました。第3部では「リストアップ」と題して、メンバーからのヒアリングの成果として新入会員候補者情報シートを作成し、拡充リストに集約しました。本年度は、入会から4年以内のメンバーに入会年度ごとの席に集まってもらい、当時の会員開発委員長に同席いただき、セミナーを聞いたうえでアドバイスをさせていただくことで、紹介する候補者をどのようにリストアップするかを具体的に示していただきました。入会から5年以上経過しているメンバーに関しては、リストアップしていただく事はも

ちろんですが、候補者がなかなか周りにいない方には特別会員や他LOMなど目線を広げていただきました。各会議体に紹介・同行・入会目標を設け、進捗状況を随時発信していくことで、メンバー一人ひとりが当事者意識を持ち、主体的に会員拡大に取り組む基盤を構築してまいります。

3月17日(火)には、会員拡大推進事業の第2弾として「新入会員候補者交流会」を開催いたします。第1部では新入会員候補者にJCI全体の取り組みから仙台JCIがどういった取り組みをしているか、またどのようなメンバーがいるか、どのような組織で構成されているかなどをご説明します。第2部では、仙台JCIメンバーとの名刺交換会を実施し、メンバーの実際の声を直接新入会員候補者に聞いていただき、新入会員候補者との交流を図ります。

2020年度も2カ月が経過し、新入会員候補者の募集期間は残すところ1カ月半となりました。会員開発委員会では50名必達を目標に会員の募集を行ってまいりました。3月は会員募集活動のピークを迎えます。会員拡大は会員開発委員会だけの力だけでは成し遂げることはできません。メンバーの皆様方のご協力よろしくお願いいたします。また、特別会員の皆様におかれましても引き続き会員拡大事業へのご理解とご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

会員開発委員会 委員長 中村 望成



公益社団法人 仙台青年会議所 2020年度 広報誌「のぞみ」425号をご覧くださいまして誠にありがとうございました。425号では、郡和子仙台市長との対談をはじめ、第69代理事長 木血讓司君のご挨拶、そして各組織体の紹介とご挨拶を掲載させていただき、本年度の仙台青年会議所のスローガンとともに、本年度、仙台青年会議所はどのような事業に取り組み、仙台市とどのようなパートナーシップを構築していくのかを、市民の皆様

に周知いただく内容を掲載させていただきました。本年度の公益社団法人 仙台青年会議所は「Work Together to Create the Future～至誠の精神のもと仙台の未来を切り開こう～」のスローガンのもと運動を展開してまいります。

広報委員会では、仙台青年会議所の様々な運動を地域や市民の皆様幅広く認知いただき、運動へのご理解と共感の輪を広げ、市民協働による、誰もがしがあわせな未来を想い描くことができる仙台の実現に向けて、委員会メンバー一丸となって運動を展開してまいります。

広報誌「のぞみ」425号の発行にあたり、ご協力、ご支援を賜りました皆様へ、心から御礼を申し上げます。

広報委員会

- 委員長 佐々木 拓也
- 副委員長 勝又 源紀
- 副委員長 中村 圭祐
- 幹事 渡部 要介
- 幹事 荒川 広之
- 幹事 大村 芳夫
- 委員 青木 洋介
- 委員 大友 勇平
- 委員 高橋 史士
- 委員 高橋 博明
- 委員 唯野 克也
- 委員 平野 寿樹

お気に入りの靴 バッグの修理など お任せください!

壊れた
金具の
交換

綻んだ
縫い目の
修理



磨り減った
カカトの
交換

磨耗した
靴底の
修理

新居の
合鍵作製



靴・バッグの修理と合鍵作製



クイックセンター

イオン仙台店
イオンモール石巻店

THE MALL仙台長町店
イオンモール富谷店
S-PAL仙台店(靴物語)

イオン仙台中山店
イオンモール山形南店

<http://www.kutushuri.com/>